

日本英語教育史学会 第 285 回 研究例会

日 時：2021 年 11 月 20 日（土）14：00～17：00

オンライン開催：申込方法については、学会ウェブサイト（<http://hiset.jp/>）内の

[「オンラインによる研究例会 参加方法」](#)をご参照下さい。

○【シリーズ：わたしのしごと】「戦時下の雑誌『語学教育』を読み解く」

河村和也（県立広島大学）

【概要】アジア太平洋戦争下の 1942（昭和 17）年 2 月、英語教授研究所は創設以来刊行していた *The Bulletin* を『語学教育』に改題し、翌月には研究所の名称を語学教育研究所と改めている。このことについて、発表者は第 275 回研究例会（2019 年 1 月・京都）で報告したが、論文のレベルに高めるには至っていない。その一方、発表者は、戦時下に刊行された 18 冊の『語学教育』を読み解き、その内容を同研究所の『語研だより』に紹介する機会を得た。「『語学教育』ものがたり」という題で毎月 1 ページの連載を始め、かれこれ 2 年半になる。『語研だより』は会員向けのニュースレターであり多くの方の目に触れることはないが、今回は、この連載の内容をご紹介するとともに、執筆の裏話をご披露できればと考えている。

○ 研究発表「日本における英語語彙学習教材変遷史：受験用英単語集確立までの道のり」

熊谷允岐（立教大学大学院〔院生〕）

【概要】本発表は、発表者の博士学位論文（2021 年 4 月 30 日）における成果の一部である。現代において単語集は、高校生や受験生の中に普及する、英語学習に欠かせない副教材の一つだとも言われる。だが、単語集それ自体は、いわゆる「受験英語」の対策本としてわが国で編纂が始まったわけではない。本発表では、日本でいつ、どのようにして受験との結びつきが強まるに至ったのかについて、単語集の歴史的変遷を辿りながら説明を行う。

参加費： 無料

問合せ： 日本英語教育史学会 例会担当

reikai(at)hiset.jp (at)を @ に変えてください。